

低学年における「上学年の漢字ルビ付き表記」の可能性を探る

上野 芳樹

1 「漢字が読める」ということ

「文を読む力」は、すべての学びの根本となる力である。そして、文が読めるためには「漢字が読める」ことがその大前提になる。つまり、漢字を読む力を育てることは、子どもたちの学びの力を育む上で最優先されるべき指導事項だと言える。このことに異を唱える人は無いであろう。

しかし、教師はそのことを明確に意識しているだろうか。漢字学習と言えば、「漢字が書ける」ことを求め、ひたすらノートに書く練習をさせている教室が大半である。漢字を書けるようになることは最終目標であるが、まずは「漢字が読める」力をすべての子どもたちにつけること、そこに意を注ぐべきではないか。

2 「漢字を読む」力を育てるために

漢字を読む力を育てるには、子どもたちが漢字に触れる機会を積極的に増やすことである。新学習指導要領解説にも次のように書かれている。

漢字の指導については、日常生活や他教科等の学習における使用や、読書活動の充実に資するため、上の学年に配当されている漢字や学年別漢字配当表以外の常用漢字についても、必要に応じて振り仮名を用いるなど、児童が読む機会を多くもつようにする。

上学年の漢字もルビ付きで見せ、子どもたちの目に触れる機会を増やすべきという方向性は正しく、子どもたちの「漢字を読む」力を育む上で有効な手立てになるのではないか。

そう考えたとき、現行の教科書教材の表記は果たして妥当なのだろうかという疑念が生じる。現在、国語の教科書教材の表記は、各学年の配当漢字の枠で制限されているため、原則的に次のような表記になっている。

えっちゃんと きつねが かおを 見あわせた とき、つよい 風が ふいてきて、また、ぼうしを さらって きました。
(東京書籍国語2年上「名前を見てちょうだい」より)

これを、次のような未習の漢字もルビ付き表記にすると次のようになる。

えっちゃんとかおきつねがあ顔を見合わせたとき、つよ強い風が吹いてきて、また、ぼうし帽子をさらってきました。

このように表記された文を読むことを子どもたちは難しいと感じるかもしれない。しかし、少し読んでみれば「ルビがついているから同じだ。難しくはない。」と受け止めてくれるのではないか。また、漢字は自然に分かち書きの機能がある。分かち書きしない方法で読めるようにする方が自然ではないだろうか。

もしこうした表記を子どもたちが抵抗なく受け入れるとしたら、ルビ付き表記で上学年の漢字も見せ、音読練習を重ねる中で漢字の形・読み方・意味を体得していく学び方は、子どもたちが無理なく「漢字を読む」力を高める有効な手立てになる。そのことを実証したいという思いで、3年前から「上学年の漢字ルビ付き表記」の実践を進めてきた。

3 3年生で漢字ルビ付き表記文を読む試み

平成27年度3学期、東近江市立湖東第一小・湖東第二小・玉緒小の三校の三年生に、「人をつつむ形」の単元でルビ付き漢字テキストを音読テキストとして使用してもらった。



大草原の白い家 モンゴル

見渡す限りの草原に点々と白いものがあります。近づくと、それは何かを包んだような形をしているのが分かります。羊や馬を放牧して暮らす人々の家、ゲルです。

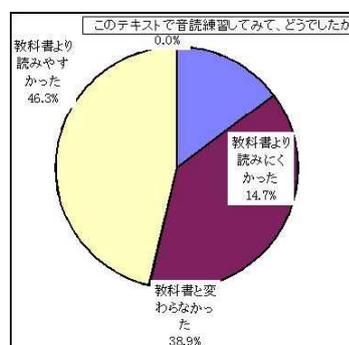
ゲルは、移動できる組み立て式の家で、水を手に入れやすく、羊や馬が食べる草が生える所に建てられます。家の骨組みは木でできていて、その骨組みをフェルトでおおうと、すぐに家を組み立てることが出来ます。

フェルトは羊の毛でできているため、厳しい冬の寒さをしのぐことができます。

学習後のアンケート結果は次のとおりである。

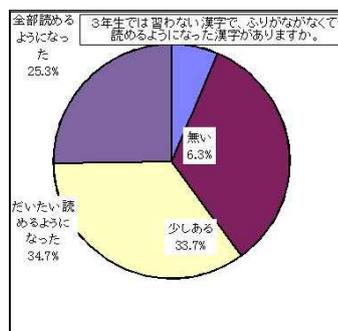
(1) このテキストで音読練習してみて、どうでしたか？

選択項目	人数	構成比
教科書より読みにくかった	14	14.7%
教科書と変わらなかった	37	38.9%
教科書より読みやすかった	44	46.3%
無回答	0	0.0%
合計	95	100.0%



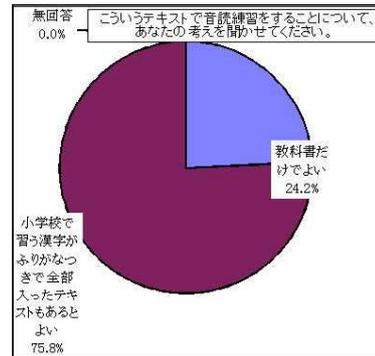
(2) 3年生では習わない漢字で、ふりがながなくても読めるようになった漢字がありますか？

選択項目	人数	構成比
無い	6	6.3%
少しある	32	33.7%
だいたい読めるようになった	33	34.7%
全部読めるようになった	24	25.3%
無回答	0	0.0%
合計	95	100.0%



(3) こういうテキストで音読練習することについて、あなたの考えを聞かせてください。

選択項目	人数	構成比
教科書だけでよい	23	24.2%
小学校で習う漢字がふりがなつきで全部入ったテキストもあるとよい	72	75.8%
無回答	0	0.0%
合計	95	100.0%



4 2年生で漢字ルビ付き表記文を読む試み

3年生での試行実践は、おおむね期待どおりの結果を得た。では、更に学年を下げて2年生の子どもたちはどう反応するだろうか。その検証実践を愛東南小2年生で行ってもらった。

東京書籍2年下の国語教材「ビーバーの大工事」の学習と並行して次のような音読テキストを作成し、その音読練習に取り組んでもらった。

漢字音読名人「ビーバーの大工事」読んでみよう編

——を引いた漢字が読めるようになったらふりがなをぬりつぶしましょう。——を引いていないのは上の学年で習う漢字ですから読めなくてもいいです。でも、これも読めたらすごいな。

⑩	まるで大工さんの使うのみのようだ。
⑨	下あごの鋭い歯でぐいぐいかじる。
⑧	近寄って見る。
⑦	大きな木が地響きを立てて倒れる。
⑥	幹の回りが五十センチメートル以上もある木
⑤	木の皮や木くずが飛び散る。
④	ビーバーがすごい速さで木をかじる。
③	大きな森の中の川のほとり。
②	木を切り倒すビーバー。
①	ビーバーの大工事

——を引いた漢字がみんな読めるようになったら、友達に聞いてもらいましょう。3人から合格のサインをもらえたら次に進めます。

担任の先生から報告いただいた取組の概要は次のとおりである。

- ・2年になってから、「漢字音読名人」を毎週木曜日、帯の時間(15分)にやっていた。
- ・「ビーバーの大工事」の学習が始まったとき、教科書を見てA君は「むずかしい漢字がたくさんあるから読めへん」と言っていた。
- ・「みんなの勉強を応援してくれている人が『漢字音読名人ビーバー版』を作ってくれたから、これでがんばろうね。」と言って音読テキストを渡した。
- ・漢字がたくさんあり、最初はびっくりしていた子どもたちだが、漢字音読名人は前からやっていたので、「いけるいける」という感じで抵抗なく取り組みを始めた。最初難しいと思って参加しなかったA君も「読み仮名がついているから読める」と分かってすぐ参加するようになった。
- ・週2回(1回15分程度)、全部で5～6回程度の取り組みだった。
- ・練習できたら教師の前でテストを受け、合格したらごほうびシールという形で2回目、3回目と繰り返した。
- ・負けず嫌いの子が多く、テストでつまずくと、「くやしい～」、合格できると「やった～!」という感じでがんばっていた。読むことが苦手だったA君もだんだんスラスラ読めるようになった。

こうした取り組みの結果、子どもたちの漢字を読む力がどの程度高まったのかを調べるためにチェックテストを実施してもらった。

どれだけ読めるようになったかな？

◎読める漢字にふりがなを書きましよう

(名前) K 児

<p>① ビーバーの大工事。</p> <p>② 木を切り倒すビーバー。</p> <p>③ 大きな森の中の川のほとり。</p> <p>④ すごい速さで木をかじる。</p> <p>⑤ 木の皮や木くずが飛び散る。</p> <p>⑥ 幹の回りが五十センチ以上ある。</p> <p>⑦ 木が地響きを立てて倒れる。</p> <p>⑧ 近寄って見る。</p> <p>⑨ 下あごの鋭い歯。</p> <p>⑩ 大工さんの使うのみのようだ。</p> <p>⑪ 柳の木が次々に倒される。</p> <p>⑫ 木を更に短くかみ切る。</p> <p>⑬ 川の方に引きずって行く。</p> <p>⑭ 上手に泳いで行く。</p> <p>⑮ 尾はオールののような形。</p> <p>⑯ 木を川の底に差し込む。</p>	<p>⑰ 小枝を積み上げる。</p> <p>⑱ 石で重しをして泥で固める。</p> <p>⑲ 十五分間も水の中にいる。</p> <p>⑳ 夕方から夜中まで、家族総出で仕事を続ける。</p> <p>㉑ 反対側の川岸まで少しづつ伸びていく。</p> <p>㉒ 高さ2m、長さ四百五十m</p> <p>㉓ 水がせき止められ、その内側に湖ができる。</p> <p>㉔ 湖の真ん中に巣を作る。</p> <p>㉕ まるで水の上に浮かんだ島</p> <p>㉖ 巣の入り口は水の中にある。</p> <p>㉗ 泳ぎの上手な動物でないと決して巣の中に入れない</p> <p>㉘ ダムを作るのは敵に襲われない安全な巣を作るためだ。</p>
---	--

チェックテストの結果は以下のとおりである。B～K 10名は、些細な読み仮名の書

き間違いはあるものの、完璧に読めるようになったと言ってよい。「教科書の文が難しい」と言っていたA君も当該学年の漢字はほぼクリアし、上学年の漢字もかなり読めるようになっていた。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
大	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
工	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
事	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
木	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
切	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
倒す	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
森	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
中	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
川	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
速さ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
皮	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飛び	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
散る	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
幹	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
回り	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
五千	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
以上	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○
地	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
響き	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
近寄る	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
見る	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
下	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大工	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
使う	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
柳	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
次々	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
更に	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
短く	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
切る	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
川	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
方	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
引く	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
上手	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
泳ぐ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
行く	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
尾	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
形	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
底	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
差し込む	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
小	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
枝	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
積み	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
上げる	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
石	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
重し	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
泥	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
固める	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
十五分間	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
水の中	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
夕方	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
夜中	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
家族	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
総出	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
仕事	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
続ける	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
反対側	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
川岸	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

少し	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
伸びる	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
高さ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
長さ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
四百五十	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
止める	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
内	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
側	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
湖	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
真ん中	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
菓	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
作る	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
浮かぶ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
島	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
入り口	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
動物	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
決して	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
敵	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
襲う	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
安全	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○

[担任の報告]

- ・チェックテストは20～25分でできた
- ・何度も繰り返し唱えていたので文で覚えている子が多そうだった。
(「ポプラじゃなくて、……あと一つ『やなぎ』や」というふうに)

チェックテストと併せて、この取組に対する子どもたちの感想もアンケート形式で集約してみた。その結果は次のとおりである。

やってみてどうでしたか？	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	合計
一生懸命やれた	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	11
ふつう												0
がんばれなかった												0
2年生では習わない漢字もふりがなつきで使っていることについてどう思いましたか？												
難しかった			○	○	○	○					○	5
難しくなかった	○	○					○	○		○		5
漢字入りの方が○									○			1

[担任の報告]

- ・「難しかった」と答えた児童のうち、D・F・G・K児はがんばりやさんであり、たまにつまずくこともあったがスラスラ読めていた。
- ・E児は普段から漢字を読むことが苦手な子だが、ビーバーの大工事は繰り返し2～3回やったので自信があったように思う。
- ・A児はチェックテストの時集中を欠き、分かるところだけはやったという感じ。

4 取組の評価

かなり難解な上学年の漢字（襲う・倒す・響く・総出 など）もほとんどの子が読みこなしているという事実をどう評価するか。担任の報告にあるように、文として暗記してしまったから読めただけのことであり、その漢字が確かに読めるようになったと評価するのは早計であろう。しかし、少なくとも、繰り返し音読する中で上学年で習う未知の漢字が既知のものになったということは言えるのではないか。上学年でその漢字に出合ったとき、「この字、知ってる」と、低学年で学んだ体験が反映され、習得もしやすくなるのではないかと期待する。

何よりも重要なことはこの音読練習を子どもたち全員が「いっしょうけんめいやれた」と答えていることである。「難しかった」と答えている子も、「難しさに挑戦し達成できた」という主体的な取組であったことが担任の評価からうかがえる。学力的には様々なレベルにある子どもたちが、どの子も夢中になって取り組めたという事実は、ユニバーサルデザイン教育の視点から見ても大いに評価できることではないだろうか。

また、1名だけだが「漢字の入っている方が読みやすかった」と答えている。これは、表音文字であるひらがなだけの表記よりも、漢字が入っている方が言葉のまとまりとして捉えやすいということではないだろうか。

上学年の漢字をルビ付き表記した文を読むことは、2年生の子にとっても難しいことではなく、漢字を読む力、主体的な学びの意欲を育む上で有効な取組であることを今回の実践は実証できたように思う。今後、更に多くの実践事例を集め、検証を進めたい。

【付記】

漢字音読名人 取り組みの感想

ビーバーの学習を終わった後、「今日は漢字音読名人（通常）をするよ」と言ったら、A児から「え～、ビーバーじゃないの？」という声が出ました。最初は難しいと思っていた漢字音読名人（ビーバー編）だったけれど、何度も繰り返す内に A 児にとってこれだけはぜったい読めるという自信になっていたのだと思いました。

子どもたちは、普段から、普通の漢字音読名人にも一生懸命取り組んでいただけで、ビーバー編（全て漢字）のちょっと難しいけどがんばったらできそうという課題に、一生懸命取り組むことができました。本当に難しかったら A 児は途中で諦めていたのではないかと思います。「何度も練習してがんばったらできる」かつ「上のレベルに挑戦しているんだ！」という気持ちが、子どもたちが頑張れた理由だと感じました。

上野先生、子どもの自信になる素敵な教材を作ってください、ありがとうございました。また他の単元でも取り組みたいと思います。

愛東南小学校2年生担任 村地 遥香